

令和8年開校 中頓別町立中頓別学園（幼小中一貫義務教育学校）R8・10・1

 **中頓別学園だより** 

中頓別学園

学園HP 

10月の主な予定

▶3（土）	吹奏楽部卒業コンサート 13時半	▶16（金）	前日祭 6時間目
▶5（月）～	学園祭特別時間割開始		図書ボランティア
▶7（水）	9年生 学力テスト	▶17（土）	学園祭 8時40分開演
▶8（木）	児童生徒総会	▶19（月）	学園祭振替休日
▶13（火）	6年生 英検 ESG	▶23（金）	漢字検定
▶14（水）	総練習 職員会議	▶26（月）	開校記念 学園づくり授業特別版

■9月29日（火）

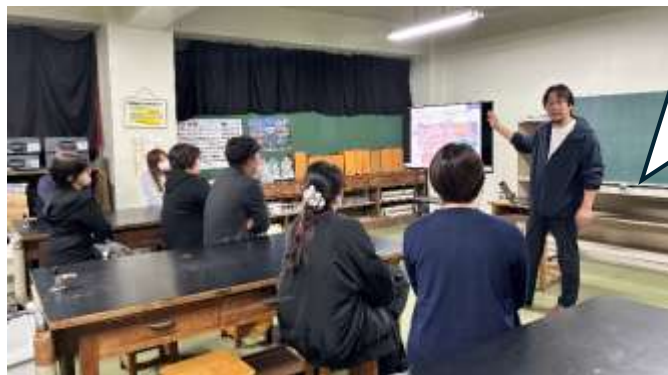
PTA 役員会・学年代表施設説明会

新校舎・新施設の建設は60%ほどが完了しています。

公募していた新施設（仮）「人生100年の学びの拠点センター・中頓別学園」の愛称も『ゆるっと』と決定しました。

町と教育委員会が主催の「町民・保護者向け新施設説明会」が、10月27日（火）18時から開催される予定です。それに先立ち、ちょうどPTA役員会が予定されていたことから、PTA役員・PTA学年代表、図書ボランティアのみなさんに、現時点での新施設・新校舎についてご説明し、ご意見を伺う場を持ちました。日中おこなっている「なかとんミーティング」には、仕事などのため参加が難しい保護者の方もいらっしゃいます。そこで、保護者のみなさんの代表として、新しい施設について感じていることや期待することなど、率直なご意見を伺いました。

当日は、令和5年から、新施設づくりに関わっていただいている、教育環境研究所の廣瀬研究員にご説明をいただき、参加者で意見交流をしました。廣瀬研究員には、これまで児童生徒・教職員の話し合いにも継続して入っていただき、また、中頓別学園の教育目標に合わせた環境づくりについて助言をいただいています。また、そこで出されたさまざまな意見を設計者に伝えるように意見をまとめ、調整する役割も担っていただいています。



お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。

参加していただいた代表の方からは、「たくさんの希望や意見を取り入れて環境づくりが進んでいることがわかりました。ありがとうございます。」「図面だとまだまだイメージできない所がありますが、ワクワクや楽しみな気持ちになりました。」等の意見が出されました。

ぜひ、10月27日（火）の町民説明会にご参加ください。

■R8 学校評価（Ⅰ）の結果と今後の取組

結果をもとに、中頓別学園の教育目標「つくる・つながる・つみあげる」に向けて、教育委員会・PTA役員会でも対話協議を行いました。

学校評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。お子さんの成長を喜ぶ声、学園への励ましやご意見をお寄せいただきました。教職員の協議だけでなく、9月末に行われた定例教育委員会、ならびに、PTA役員会など様々な場面で協議いたしました。主なご意見への返答と合わせて、全体の結果をお伝えします。

学校評価を よりよい学びと学校生活につなげます。

本学園の学校評価は、子ども・教職員・保護者・地域が、それぞれの立場から教育目標や学園との関わりを振り返り、共に改善するためのものです。学校は寄せられた声を、授業や子どもへの関わり、学校運営に生かします。引き続き「共に子どもたちの成長と学びを支える」パートナーとしてよろしくお願いします。

～保護者の皆様の声にお答えし、寄せられたご意見をご紹介します。～

▶学園づくり授業の目的と授業時数について「大学・企業との協働は何のためか」「どの授業が少なくなるのか」等のご質問がありました。

○授業時数は削減していません。→各教科等の時間を確保し、学習内容や進め方を工夫し、総合的な学習の時間で学年ごとに行っていた対話学習を協働の形へ発展させ、「なかとんミーティング」などに取り組んでいます。

○伝え合い、社会に関わる力を育みます。→少人数では難しい場合もある子どもたちの実態を踏まえ、多様な相手と話し、聞き、共に考える経験を広げ、言語・コミュニケーションの力を育み、主体的な社会参画につなげる目的で行っています。こども園の「こども会議」とのつながりもつくっています。

○出会いから未来の選択肢を広げています。→子どもたちの「こんな人に会いたい」という願いを大切に、大学・企業・地域と協働しています。町内では触れる機会が少ない文化や知識、多様な仕事・生き方との出会いを、豊かなキャリア形成につなげます。

○教科等の目的に合う、質の高い学びを届けています。→学校だけでは提供しきれない専門的な知識や体験を、外部の方の力で充実させます。AI時代の変化の激しい社会でも、自ら考え、他者と協働し、学び直しながらたくましく生きる力を育てます。

○文科省も、言語能力と多様な人との協働を重視しています。→次期学習指導要領に向けた論点整理では、主体的・対話的で深い学び、自らの人生を舵取りする力、社会参画を方向性として示しており、中頓別学園もその方向性に沿った教育活動を進めています。

▶学習につまずいたときの支援について「学力に遅れが生じた場合のバックアップ」等のご質問がありました。

○「だれ一人取り残さない居場所だらけの学校」を目指し、多様なサポートを準備しております。→欠席や学習方法との不一致など、つまずきの背景を確かめ、一人一人に応じた支援と授業改善につなげます。具体的な支援については、遠慮なく、担任・ブロックの教員にご相談ください。

▶子どもへの丁寧な関わり「もっと、児童生徒に向き合って、安心して過ごせる環境づくりを」というご意見もありました。

○引き続き、日々の対話と教職員間の情報共有を通して、複数の目で小さな変化やSOSを捉えます。→普段頑張っている子にも声をかけ、一人一人の気持ちを丁寧に聴きます。ご家庭で気になる様子もお知らせください。

▶挑戦を支える関わりへの励まし「先生方を信頼」「挑戦できた」「多くの先生が関わり安心」「家族の会話が増えた」との声も沢山いただきました。

○「チーム中頓別学園」への温かな言葉をありがとうございます。→挑戦する思いや過程を認め、教職員全体で成長を支えます。一人一人に必要な支援を考えることは学園の大切な役割です。「手がかかり申し訳ない」と思わず、遠慮なくご相談ください。

▶自主性と指導、負担への配慮「自主性は大切だが負担にならないように」「教育者の指導も必要」というご意見です。

○子どもの思いを尊重しつつ、判断に迷う場面や、安全・ルール・他者への配慮が必要な場面では、大人がサポートします。→本人に合った参加の仕方を考えながら、「大丈夫」「難しい」などの自分の気持ちをしっかり伝え、発達段階に合わせて、自己調整できる力も育てていきます。

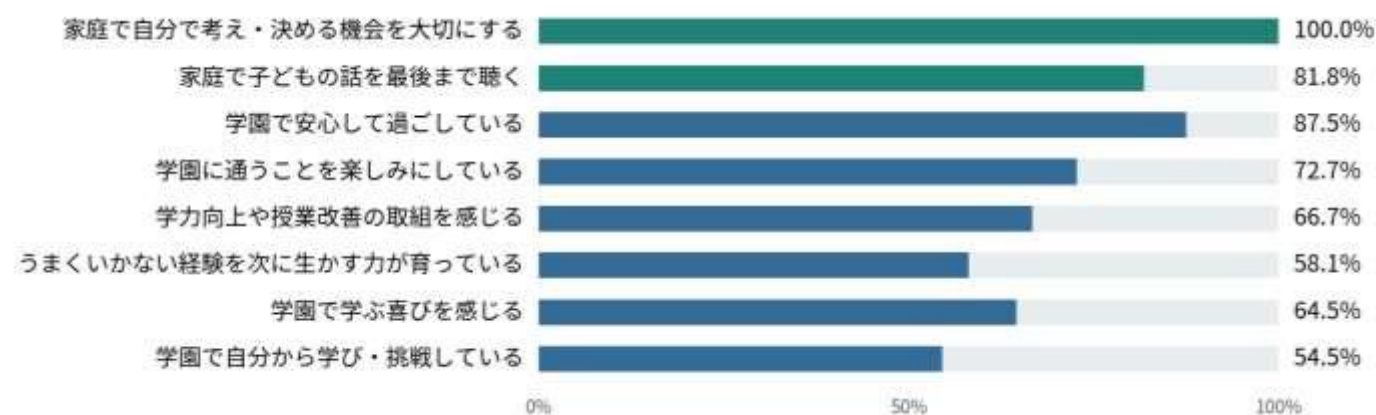
▶家庭と地域と共に学びをつみあげる「わくわくできる人に」「家庭でも積み上げたい」「悩みも話せる安心感を」「図書の充実がよい」との声です。

○子どもの「よさ」「好き」を大切に、教育の取組に評価をいただき、挑戦や読書、交流を共に支えていただいています。

うまくいかなかったことも安心して話し、次を一緒に考える関わりを、学校と家庭でつみあげていきます。

※裏面へつづく

▶中頓別学園の教育ビジョンに向けて主要項目の保護者の回答から（「とてもそう思う」+「そう思う」）



▶引き続き、安心を土台に 主体的な学びを支えていきます。

家庭で子どもの選択を大切にしている関わりや、学園での安心感に、多くの肯定的な回答がありました。一方、自分から学び・挑戦する姿や、うまくいかない経験を次につなげる力への実感には改善の余地があります。活動の負担を確かめながら、自分で選べる学び方と「できた」と感じられる経験を増やします。また、数値だけでは見えない一人一人の声も大切にしていくために、今回の分析だけでなく、連携協定を結んでいる東京学芸大学でも専門的な分析に基づく伴走をいただきながら、学園づくりを進めていきますので、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◎9月8日歯科健康教室



◎北作楽さんと「調理クラブ」



◎こども園での「保育クラブ」



■二期 児童生徒会執行部です。



今年度より、少人数の学年にも配慮し、自分の良さを生かしながら9年間の学園生活の中で色々な役割を経験できるように、学園づくりリーダーをみんなで対話協議しながら決定することにしました。委員会活動も含め、しっかり話し合っており取り組みます。

- ▶会長：澤里 奈槻さん
- ▶書記：佐藤 羽玖さん
- ▶副会長：玉置 萌恵さん
- 佐々木 晴生さん
- 升田 凜さん

◎酪農体験・ワイン作りブドウ栽培体験・探究学習



■7～8月実施

Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）

令和6年度より、義務教育学校開校を見通して、旧小中学校から同じ検査アンケートを実施し、予防的児童生徒指導を行えるようにしています。今のクラスが自分にとって居心地のよい場所か（承認されているか、嫌な思いをしていないか）を調べたり、学習や学校生活に対してやる気や意欲があるかなどを調べます。今年度より、年間2回（一期と二期）行い、一人一人をていねいにサポートできるようにしています。

(1) 結果

▶学級満足度尺度の結果を4つの群に分け、学校生活意欲尺度の結果と合わせて見えています。

	R6	R7	R8
学級生活満足群 →認められている気持ちが高く、被侵害が低い（満たされている状態）。 40%前後が平均的安定感の目安	40%	46%	43%
学級生活不満足群 →認められている気持ちが高く、被侵害が高い（いじめや孤立などのリスクが高い状態）	28%	24%	17%
非承認群 →認められている気持ちが高く、被侵害も低い（満たされていない状態）	7%	13%	8%
侵害行為認知群 →認められている気持ちも高いが、被害者意識も高い（葛藤がある状態）	25%	18%	32%
要支援児童生徒（特に心のSOS） →すぐにサポートを始めています。	5人	7人	3人

(2) 分析活用について

- ▶学級生活不満足群は 24%から 17%に、要支援児童生徒は7人から3人に減少しました。一方、侵害行為認知群は 18%から 32%に増えています。安心して自分を出せるようになった分、関わり方など一人一人の状況を丁寧に確かめ、安心できる関係づくりと支援を続けます。
- ▶支援を必要とする児童生徒が減少した一方、友達との関わりで嫌な思いや困り感を持つ児童生徒もいます。一人一人の状況を丁寧に確かめ、安心できる関係づくりと支援を続けます。
- ▶SOSの強い子は減りましたが、日常的な人間関係の中で傷つきをお互いに感じている様子から、児童生徒同士の言葉遣いや関わり方、互いの境界を尊重する関係づくり（「嫌だったと言える」「相手が嫌だと感じたらやめられる」「困ったときに相談できる」といった関係調整力）を育てる次のステップに取り組んでいくことを大事にしています。

(3) 今後にかす取り組み

- ▶今後も、教職員が一緒に遊んだり話したりできている良さを生かし、日常の様子を複数の目で丁寧にみながら一人一人が安心して過ごせる学園づくりを進めていきます。